日本の電力自由化の中間的評価

RIETI 政策シンポジウム：平成 16 年 12 月 15 日

アジア・太平洋エネルギーフォーラム
代表幹事　末次　克彦

1　わが国自由化市場の価格動向、競争動向の評価

① 自由化、規制価格とも下落　→コストの内部補助は起きていない（グラフ 1, 2 参照）
② 電力間競争は実質的に起きる→イ）電力間の価格差生じると割高市場へ
ＰＰＳ参入可能へ
→ロ）卸市場でのＰＰＳアクセス拡大は間接的な電力競争

2　送電線アクセスの評価

① 託送約款の簡素化を（ＰＰＳの要請「託送量予約仕様の簡素化を」）
② 連係線インフラの増強（推進メカが課題）― 歴史的な系統構造が制約
③ 広域送電はＰＰＳの電源次第

3　参入状況の評価と参入確保策

① 業務用市場では関東市場で離脱件数増加 → 参入実績が上がる（図 1 参照）
② ＰＰＳの電源調達は同時同量への調整力ある安価な余剰自家発に限度あり
③ 大型電源投資の市場・ビジネスリスクは大きい → 業務用自由化市場の価格リスク

4　電力会社の対応/市場行動の状況

① 需要規模の大きい顧客の離脱防止へ価格競争
② 適正取引ガイドライン、行為規制の感覚の浸透
③ 新規原発の需要確保策が必要 → 出力調整を

5　需要家の対応

① 供給者選択の行動は確実に強化された → 電力会社が顧客の声を聞くようになった
② 官公需市場の動向 ― 価格要素だけの競争なのでＰＰＳの参入容易
④ アグリゲーションの自由化に及ぼすインパクト

6　卸市場整備/広域市場の課題

① 卸市場の拡充 ― メニューの拡大
② 緊急時バックアップ用電力の取引（ＳＰＯＴの活用で）
③ 投入電源はＰＰＳの新規大型電源、契約更新時のＩＰＰ電源

7　欧米自由化の教訓

① 余剰力なくなっている＋長期的な大型投資抑制→供給力の脆弱性が上昇(グラフ 3 参照)
② 実時間価格変動への需要反応は鈍い　技術リスク増で革新技術入らず

8　今後の自由化路線の選択

① 自由化による設備投資の抑制が需給窮迫に ― 小売完全自由化のリスク

以上